

中部産業遺産研究会 会報 第38号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

・第109回定例研究会・見学会の開催について

開催日 2011/03/27(日) 13:00~

会場 JR東海「リニア・鉄道館」

集合場所 あおなみ線「金城ふ頭駅」前に午後1時。黄色い旗を目印にして持っています。

入場料 団体入場をするので800円。通常は1,000円。

JR東海「リニア・鉄道館」へは「JR名古屋駅」と「金城ふ頭駅」を結び、あおなみ線に乗り「金城ふ頭駅」下車、徒歩3分です。

「JR名古屋駅」の出発時刻は10時~12時では00分・15分・30分・45分発の15分間隔です。「JR名古屋駅」から「金城ふ頭駅」まで24分で、運賃が350円です。

名古屋市敬老パスは使えるのでご持参下さい。

JR東海「リニア・鉄道館」の休館日は火曜日、開館時間は10:00~17:30。

・第108回定例研究会の報告

司会(市野清志)・記録(宗美 修) 参加者: 42名

場所: 名古屋大学教育学部第3講義室(2階)、開催日: 2011/01/30(日)

新人会員紹介 今回該当者は出席されておらず省略した。

1. 研究報告、調査報告

[108-11-01]「産業遺産の見方・調べ方—鋼材圧延機—」

寺西克己(40分)

資料: A3版両面1枚

質疑10分

鋼材圧延機をさまざまな見方により、下記のように分類。主な製品の製造工程、代表的な圧延機については圧延機の断面図、スタンド、ロール配置などを説明された。

1. 製品の断面形状による圧延機の分類

鋼板用圧延機(厚板、薄板、帯鋼)

形鋼用圧延機(山形鋼、溝形鋼、H形鋼、鋼矢板、レール、平鋼など)

丸鋼用圧延機(棒鋼、線材)

シームレス鋼管用圧延機(継目無し鋼管)

分塊圧延機(スラブ、ブルーム、ビレット、粗形鋼片)

2. 圧延材料の進行方向による分類

非可逆式圧延機(One Way Mill)

可逆式圧延機(Reversing Mill)

3. ロールの配置数と配置位置による分類

2重圧延機(2-Hi Mill)

3重圧延機(3-Hi Mill)

4重圧延機(4-Hi Mill)

6重圧延機(6-Hi Mill)

6段Xミル(6-Hi X Mill)

12段圧延機(12-Hi Mill、Cluster Mill)

20段圧延機(20-Hi Mill、Z Mill)

プラネタリーミル(Planetary Mill)

ユニバーサル圧延機(Universal Mill)

スリーロール圧延機（3 Roll Mill、ユニバーサルの変形）

フォアロール圧延機（4 Roll Mill、ユニバーサル的一种）

4．駆動用動力と圧延機の配置による分類

シングルスタンド・ミル（Single Stand Mill、単基）

タンデム・ミル（Tandem Mill、串型配列）

一軸式ロール配列

多軸式ロール配列

H V配列

ブロック・ミル（Block Mill、Precision Mill、Size Free Mill とも）

5．圧延機の配置による製造ラインの分類

全連続式圧延設備（Full Continuous Line）

半連続式圧延設備（Semi - Continuous Line）

クロスカントリー式配列（Cross Country Mill）

前後工程との直結化圧延設備

〔108-11・02〕「服部工業の歴史的鑄造工場と三州釜の技術遺産」 天野武弘、野口英一郎（30分）

資料：A4版両面5枚

質疑5分

三河地方には江戸時代から続く鑄物業者として、岡崎には銅鑄物の安藤家と鉄鑄物の木村家、豊川では中尾家などが明治になると、中でも三州釜の販路拡大に努めた服部工業は全国展開する発展があった。同社の会社案内によると明治18年に、初代服部太郎吉が江戸時代岡崎藩の御用鑄物師であった安藤家の世業を継承して、鑄物業を創業したとある。そして業務用厨房機器の製造販売を主要業務としていた。また同社は鑄造業としては異色の、服部公益財団を大正8年に設立して、教育事業の振興にも重点を置いてきた。活動の初期には、財政難で廃校の危機に瀕していた私立岡崎工芸学校（現在の岡崎工業高校、昭和13年に県に寄付移管）を救済して、土地を提供の上に校舎を新築して再建を行った。

服部工業の鑄物業としての歴史は、初代服部太郎吉（万延元年、1860年生まれ）が明治4年の時に鍋釜及び仏具類修繕を業とする服部佐助の養子となり、17才の時に養父の事業を継いで鑄掛け業をしたことに始まる。鍋釜の製造会社として同社の名前が全国に広く知られるようになるのは、すでに行っていた機械鑄物専用の新築工場（明治42年に現在地の東海道本線岡崎駅前となる羽根町若宮に15,000坪余り（約50,000平方メートル）の鍋釜専用工場）における生産体制の整備と販路拡大に努めたことによる。

また、昭和3年の岡崎における工場生産額によると、醸造などの食料品製造を除けば、全盛であった紡織業や製糸業に次いで鑄物業が大きな産業となっている。当時6工場あった鑄物工場に占める鍋釜の生産比率は、約76パーセントを占めており、服部工業をはじめとする鍋釜生産は当地の一大産業であったことを示している。

服部工業のこうした躍進では、近代設備の導入など鑄造技術面での革新にも支えられていた。大正時代における同社の溶解炉は熱風式が採用されていた。熱風式の溶解炉とは、溶解効率を高めるために炉内に熱風を送り込む方式である。また同社では大正11年からアルミニウム製鍋釜の生産も始めているが、やはり鑄鉄製鍋釜の生産が主流であったことを当時の統計書は示している。

釜や鍋あるいは梵鐘などの丸物の製作では、古来より回し型（引き型とも呼ばれる）が用いられてきた。服部工業では三州釜と呼ばれた大釜などの製作技術が継承され、ガス釜に変わった今日に至るまで伝統的回し型による釜づくりが行われてきた。この回し型による鍋釜の製作が同社鑄造技術の最大の特徴である。同社の釜には大小15種類ほどがあり、それぞれに応じた作り方がある。「回し型」とは、中心軸の回りに釜の断面形状を模った板型を取り付けたもので、軸を固定して回転させると円形状の軌跡を描くことが出来る。釜の形状や大きさに応じて各種のものがある。

今回の調査で実測した建物は、敷地中央の南北に連なる最北の第一工場から南の第四工場までと、第四工場の西方に建っていた事務所であった。建物は仕上工場である「第一工場」の南に、通路と防火水槽を挟み「型引工場」があり、型引工場の東に「木型倉庫」が建ち、型引工場の南の空き地と木

型倉庫に接して「第二工場」・「第三工場」・「第四工場」が続いていた。第一工場は仕上場として使用され一部を除きほぼ木造である、型引工場も同様木造平屋である、木型倉庫や第一・二・三・四各工場は鉄骨造りで事務所は木造平屋建てである。

明治42年にこの地に鑄造工場を建ててからちょうど百年目となる平成21年6月に、歴史を刻んだ工場が解体となった。しかし幸いにも伝統的な釜の鑄造資料など数百点が収集、保管されている。このような資料については、産業遺産を評価する観点からも、歴史的な三州釜に関する研究が余り進んでない中、それらを解明する上でも重要かつ貴重な歴史的、技術史的資料となることは間違いない。

〔108-11-03〕「人造石工法で造られた聚楽園の大仏、西尾の大仏（おおぼとけ）」大橋公雄（20分）

資料：A3版両面2枚

質疑5分

聚楽園の大仏（東海市荒尾町聚楽園公園内）は、明治時代に一代で財を成した山田才吉が私財を投じて建立した人造石造りで、日本一の大きさを誇った仏像である。昭和2年5月に、3年の期間と当時の金額で15万円という莫大な経費を費やして完成した。聚楽園の地名は、大仏を造営した山田才吉が、大仏の北に聚楽園という旅館を建築して、この周辺を聚楽園と称したことによる。

同大仏については大仏建立趣意書にも「人造石ヲ以テ高サ七十二尺（21.6m）二至ル一大仏像ヲ建立シテ」と記述されているとおり、実際に基礎も含めて人造石工法によると思われる。昭和60年に構造劣化のため大仏の改修が行われた。改修後の大仏：座身長18.79m、台座高2.58m、重量約1,800トン（推定）

西尾刈宿の大仏（おおぼとけ）（刈谷市刈宿町常福寺境内）は昭和の大典を記念して昭和3年に完成した。製作者は聚楽園を造った後藤鎌五郎が人造石で造ったと言われている。総高16m、台座3.3mで内部は空洞で阿弥陀如来像をまつ。昭和62年に大修理が行われた。観察調査した結果では大仏像の内側に表面が剥離したところから人造石の様子がわかる。一部にコンクリートが使用されている。

2. その他の諸報告、保存問題など

〔108-21-01〕「名古屋テレビ塔のアンテナ部分の保存に関する要望書」

佐々木享（20分）

資料：A4版片面1枚

質疑5分

アナログTVの送信アンテナ保存に関する要望（案）について

名古屋地区のアナログテレビ放送事業者宛に対して、できるだけ早い機会に以下のような要望書を提出する。

貴社におかれては、ご清栄のこととお喜び申し上げます。

すでに衆知のように、貴社においても長らく地域社会の文化活動に貢献されてきたアナログTV放送は、本2011年7月を以って終了し、全国一斉にデジタル放送に全面的に切り替えられることになっております。

この歴史的な転換の時期に当たり、わたくしたちのようにかねてから文化財としての産業遺産に関心をもつ者は、人類史に一時期を画してきたアナログTV放送の施設等の今後の扱いに深く関心を寄せております。いったん廃棄処分されてしまえば、復元不可能となる運命にあるからです。そこでわたくしたちは、少なくともこれら施設のシンボルともいべき送信アンテナ（の一部）は、後世にその足跡を遺すべき貴重な文化財としての価値あるものと考えられますので、これを保存して下さいというご高配をわずらわたく、お願い申し上げます。

提案理由...経過および趣旨説明

2009年1月19日に開かれた中部産遺研第95回例会においてわたくしたちは、使用を停止した放送アンテナは撤去すべきことが法規に規定されていることを学んだ。

また、2010年2月27日に開かれた中部産遺研主催のシンポジウム「日本の技術史をみる眼」第28回の「名古屋テレビ塔とアナログ放送半世紀」においては、名古屋テレビ塔が建設された経過やその歴史的意義、アナログ放送が半世紀余にわたり稼動したなかでの技術的変遷を学んだ。

昨2010年9月26日に開かれた中部産遺研第106回例会としての名古屋テレビ塔及びNHK施設の見学は、アナログ放送が予定通りに2011年7月に廃止されれば現在の送信設備一切が無用になり、放送アンテナを含む送信設備一切はたちまちのうちに遺物という産業遺産になるという緊張感を感じさ

せた。

こうした経過を経て、われわれ産業遺産に関心をもつ者は、このアナログTV放送の送信設備の保存に着目すべきと考えるに至った。そこで昨年11月の第107回例会後の懇親会の席では佐々木が個人名で「アナログ送信アンテナ保存に関する件(提案)」なるちらしを配布した。「ちらし」配布というこのやや不規則な提案に対して、永田宏さんを含む若干の会員から好意的な反応が寄せられた。デジタル放送への切り替えまで時間的な余裕もあまりないことなので、ここに、各事業者に提起する要請書の文案を添えて、研究会として行動を起こすことを提案する。

なお、名古屋テレビ塔自体の保存問題については、検討すべき問題が多岐にわたるので、別個に考える。

〔108-21-02〕「記念事業」への提案意見

事務局(5分)

資料:なし

質疑10分

今年は1973年(昭和48)に「愛知技術教育研究会」が始まり37年になる。そして、1984年(昭和59)に「愛知の産業遺跡・遺物調査保存研究会」が愛知技教研を母体にして発足して26年になる。さらに、1993年(平成5)に「中部産業遺産研究会」が設立されて17年になる。当会は、そのルートから数えて区切りの年が3~4年後にある。記念事業として何か考えても良いかと思う。

これらについては 記念事業をやるかどうか、その出発点をどこにするかの2点に集約できるとの説明があった。当会の出発点についてはいろいろ意見があったが、スタート時点で係わり合いのある人に集まっていたら協議をしてもらうことに落ち着いた。

〔108-21-03〕「会員の近況報告:今調べていること、取り組んでいること、興味関心のあること」

一人3~5分程度で以下の方が発言あった。

佐々木享:今年のパネル展は名古屋の木材産業がテーマだが昔から大工の町と名古屋の町は言われているのでこのことに期待する。

永井唐九郎:実家の周辺には2大製茶業者がおり、資料の保存に関わっている。

八田健一郎:産業技術記念館の自動車館にあるシャシーダイナモメータは私に関わったもので後輩たちにも知ってもらいたいのでそれらの資料をまとめている。

藤井建:西尾鉄道が創立100周年を迎えるに当たり、関係資料やエーボンサイドの木があったら見せてほしい

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

〔108-31-01〕研究誌『産業遺産研究第18号』について

浅野伸一(1分)

資料:A4版片面1枚 現在発行準備中の18号の内容確認があった。

〔108-31-02〕会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集

橋本英樹(1分)

上記メール版の原稿依頼があった。

4. シンポジウム

〔108-41-01〕シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第29回

山田 貢(5分)

テーマ「私のまわりの産業遺産 - 記録・保存・活用の事例 - 」

開催日 2011/03/05(土)13:00~17:00(受付開始12:00)

会場 名城大学名駅サテライト(名古屋市中村区名駅3-26-8名古屋駅前SIAビル13F)

(説明)会場場所に注意、40件の事例あり報告集に記載

5. 見学会、その他の催し物

〔108-51-01〕「ものづくり文化再発見!ウォーキング大会」報告 柳田哲雄、寺沢安正(5分)

瀬戸コース(COP10パートナーシップ事業)は、2010/10/10(日)に先日の雨が上がり良い天気に恵まれ、無事に終了した。参加者は109名だった。

堀川コース(名古屋開府400年祭パートナーシップ事業)は、2010/11/13(土)に行われ曇っていたが、雨天にならなくて良かった。事前申し込みは69名だったが、欠席者が27名あった。参加者は

当日に 43 名あり、合計 112 名であった。

無事に瀬戸コース・堀川コースを終えることができた。

〔108-51-02〕パネル展「名古屋のまちづくりを支えた堀川・新堀川」報告 大橋公雄(5分)

パネル展:2010.11.22~12.5 都市センター11階企画展示コーナー、パネル41枚、来館者1761名。

講演会:名古屋都市センター11階ホールにて、報告は会員5名、聴講者106名。

2011年11月頃 パネル展「名古屋の“ものづくり”を支えた木材産業」

ー木材加工業から名古屋の産業とまちづくりは発展した!-(仮)を計画している。

第1回勉強会を2011/02/11(金・祝)の午後2時より名古屋都市センター13階で予定している。

6. 文献紹介、資料紹介()内は紹介者

〔参考文献〕

〔108-61-01〕「日本機械学会編『新・機械技術史』2010.12.24発行」 (天野武弘)

〔参考資料〕

〔108-62-01〕「豊橋鉄工会編集発行『豊橋鉄工会50年のあゆみ』2010年11月」 (天野武弘)

〔その他の資料〕

〔108-63-01〕「名古屋都市センター ニュースレター Vol.86」 (事務局)

〔108-63-02〕「名古屋都市センター まちづくり来ぶり」第53号」 (事務局)

〔108-63-03〕「岐阜産業遺産研究調査会会報 No.78」 (事務局)

〔108-63-04〕「産業技術記念館 館報 赤れんが 54号」 (天野武弘)

7. 出版広報事業

〔108-71-01〕 インターネット

・<http://csih.sakura.ne.jp/> 左記に変更して、内容が変わった 永井唐九郎(1分)

毎日見て「中部産業遺産研究会」や「中部産遺研」で検索にかかるとようにしましょう。

〔108-71-02〕 中部遺産研究会の本

8. 委員会、役員会、研究分科会

〔108-81-01〕 幹事会・役員会

・第3回幹事会 2011/01/30(日)12:00~12:30 名古屋大学教育学部第3講義室(2階)

- 1、電気新聞の特集・発行について。
- 2、会費納入の現状について。
- 3、名東生涯学習講座の結果と現状について。
- 4、産業遺産ウォーキング大会の結果と現状について。
- 5、名古屋都市センターのパネル展の結果と現状について。
- 6、日本の技術史をみる眼の現状について。
- 7、産業遺産研究の現状について。
- 8、書籍販売の現状について。
- 9、今後の例会・見学会の会場と日程について。
- 10、会報の現状について。
- 11、その他。

名古屋テレビ塔について。総会時の記念公演は、大橋公雄会員に「台湾の産業遺産」の題で依頼し、了承された。現在の会員名簿を幹事にメールする。会員名簿を次回総会時に会員へ配付する。

〔108-81-02〕シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第29回 実行委員会

・第5回 2011/01/30(日)10:30~12:00 名古屋大学教育学部

・第6回 2011/03/27(日)17:00~19:00 会場未定・予定

〔108-81-03〕パネル展「名古屋の“ものづくり”を支えた木材産業」勉強会

・第1回 2011/02/11(金)14:00~16:30 名古屋都市センター13F

- ・第2回 2011/04/17(日) 14:00~16:30 名古屋都市センター13F・予定
- ・第3回 2011/06/19(日) 14:00~16:30 名古屋都市センター13F・予定
- ・第4回 2011/08/07(日) 14:00~16:30 名古屋都市センター13F・予定
- [108-81-04] 研究誌『産業遺産研究第18号』編集委員会
- ・第2回 2011/01/30(日) 12:30~12:55 名古屋大学教育学部第3講義室(2階)

9. 総務・事務局関係

[108-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

- ・第60回日本機械学会東海支部総会・講演会(技術と社会部門) 2011/03/15 豊橋技術科学大学
- ・第109回定例研究会・見学会 2011/03/27(日) 13:00~ JR東海「リニア・鉄道館」
- ・第35回産業考古学会総会・一般講演会 2011/05/21(土)~22(日) 都立産業技術高専
荒川キャンパス
- ・第19回総会・第110回定例研究会 2011/05/29(日) 13:00~ 名古屋工業大学・予定
司会:宗美修、記録:岡野允俊
- ・第111回定例研究会 2011/07/24(日) 13:00~ 名城大学名駅サテライト・予定
- ・第112回定例研究会・見学会 2011/09/25(日) 13:00~ 見学先未定
- ・第113回定例研究会 2011/11/27(日) 13:00~ 会場未定
- ・第114回定例研究会 2012/01/29(日) 13:00~ 会場未定
- ・第115回定例研究会・見学会 2012/03/25(日) 13:00~ 見学先未定
- ・第20回総会・第116回定例研究会 2012/05/27(日) 13:00~ 会場未定
- [108-91-02] 会員異動 ()内は入会日・退会日
- ・入会:黒田光太郎(2011/03/05)・松下佐知子(2011/03/05)
- ・退会:ありません

研究誌『産業遺産研究第18号』編集委員会

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。

会報編集委員会より

編集委員の募集や、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。原稿はテキスト形式で作成していただく と編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。

原稿送付先:野口英一朗 noguchi.@d5.dion.ne.jp (アドレスにご注意下さい。@の前にドット。)

電子メールをお持ち会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事(hidekih@wine.plala.or.jp)までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

中部産業遺産研究会会報 第38号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.38 2011-3

発行:中部産業遺産研究会

発行人:佐々木享

発行日:2011年3月10日

編集委員:野口英一朗・伴公太・中住健二郎・橋本英樹

事務局:〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>に変わりました。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.